

ごみ処理施設設置の経緯（昭和62年まで）

1959	昭和34年	日野市衛生処理場として、し尿(27kℓ/日)、ごみ焼却炉(15t/日)
1963	昭和38年	日野市衛生処理場が、ごみ処理施設として都市計画決定
1966	昭和41年	ごみ焼却炉(30t/日)新設
1968	昭和43年	し尿処理場(60kℓ/日)新設
1969	昭和44年	家庭ごみの収集効率を上げるため、不燃ごみのダストボックス方式による収集開始。
1971	昭和46年	可燃ごみのダストボックス方式による収集開始。
1972	昭和47年	ごみ焼却炉(120t/日)新設
1973	昭和48年	し尿処理場(50kℓ/日)増設
1973	昭和48年	日野市衛生処理場対策協議会(後の地元環境対策委員会)発足
1979	昭和54年	北川原公園として都市計画決定
1982	昭和57年10月	ダストボックス廃止を広報でお知らせ。①ごみ出しのルールが守られない②常設のため付近の住民に迷惑がかかる③都市化が進み置場の確保が困難である④交通安全上問題がある等のため
1983	昭和58年	市民の合意が得られず、ダストボックス収集の継続を決定。
1983	昭和58年	し尿処理場(80kℓ/日)増設
1983	昭和58年	北川原公園の事業認可（平成9年まで用地買収を進め、その後事業停止）
1985	昭和60年1月	日野市クリーンセンターに名称変更
1985	昭和60年1月1日	日野市衛生処理場対策協議会が日野市クリーンセンター地元環境対策委員会に名称変更
1987	昭和62年	ごみ焼却炉(220t/日)新設